

WindowsXPにRubyとRuby-GNOME2をインストールする

2009/06/15 chrono

Ruby言語のインタプリタ本体、GTK+ライブラリ、RubyからGTK+を利用するためのライブラリや関連ツールなどをインストールして、RubyとRuby-GNOME2を使ったプログラミングを行うための環境を作る方法です。

1. Ruby本体のインストール

ここでは、バージョンが1.8系で手軽にインストールが行えるActiveScriptRubyおよびOne-Click Ruby Installer for Windowsのインストール方法を説明します。どちらもRuby-GNOME2と組み合わせて使えるようですので、以下の説明や公開元のウェブページなどを参考にして、どちらか気に入った方をインストールして下さい。

1.1 ActiveScriptRubyをインストールする

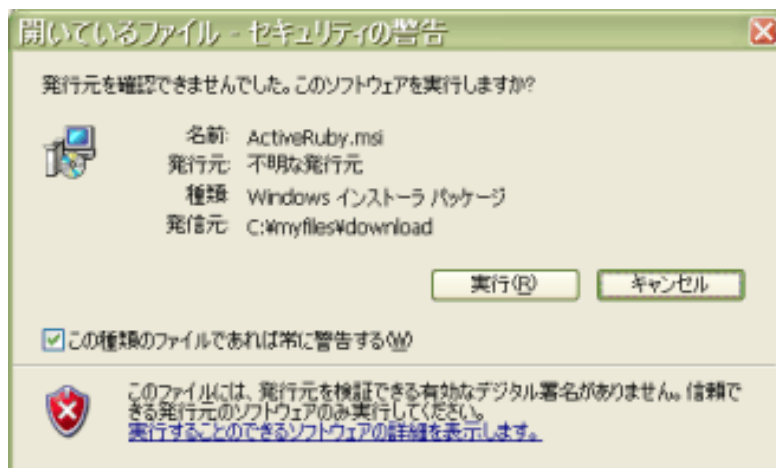
公開場所: <http://arton.hp.infoseek.co.jp/indexj.html>

ActiveScriptRubyは、『Rubyを256倍使うための本 邪道編』などの著書で知られる、arton氏が公開しているインストーラーアーカイブです。公開場所ページの冒頭の大きなフォントで表示されたリンクからダウンロードします。ここでは、「ActiveScriptRuby 1.8.7(p72) with-winsoc2 (revise)」(ファイル名: ActiveRuby.msi)をダウンロードしたものと説明します。

インストーラを実行する

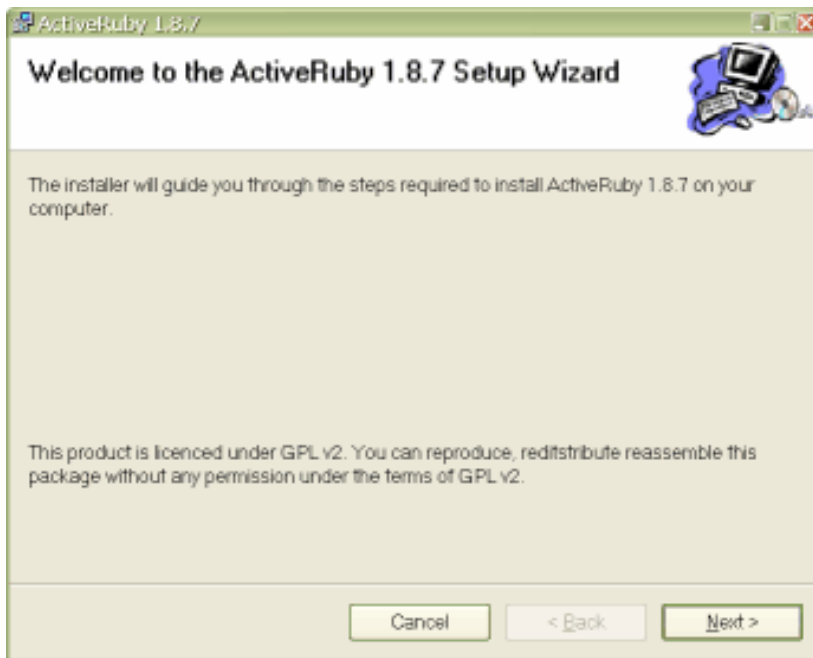
まずダウンロードした"ActiveRuby.msi"をダブルクリックします。すると、Windowsの設定によっては、図1のようなセキュリティについて警告するダイアログが表示されます。

図1



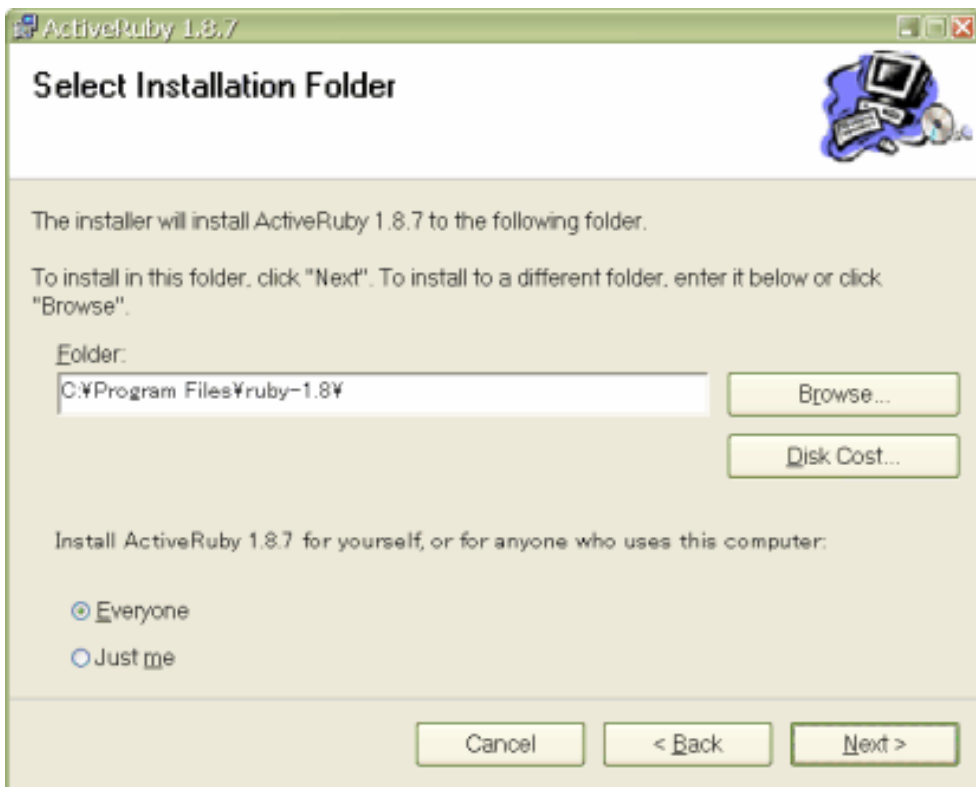
これは、Windowsにとってファイルの正体がわからないというだけの意味なので、「実行」ボタンをクリックして続行して下さい。インストーラが起動してスタート画面が表示されます(図2)。

図2



ここでは、入力すべきことは何もないので、「Next」ボタンをクリックして続行します。

図3



次に「Select Installation Folder」というタイトルのページが表示されます(図3)。このページでは、まずテキスト入力欄にRubyをインストールするフォルダを指定します。テキスト入力欄に最初から表示されているフォルダはおそらく「C:\Program Files\ruby-1.8\」だと思いますが、これを「C:\ruby-1.8\」に修正して下さい。

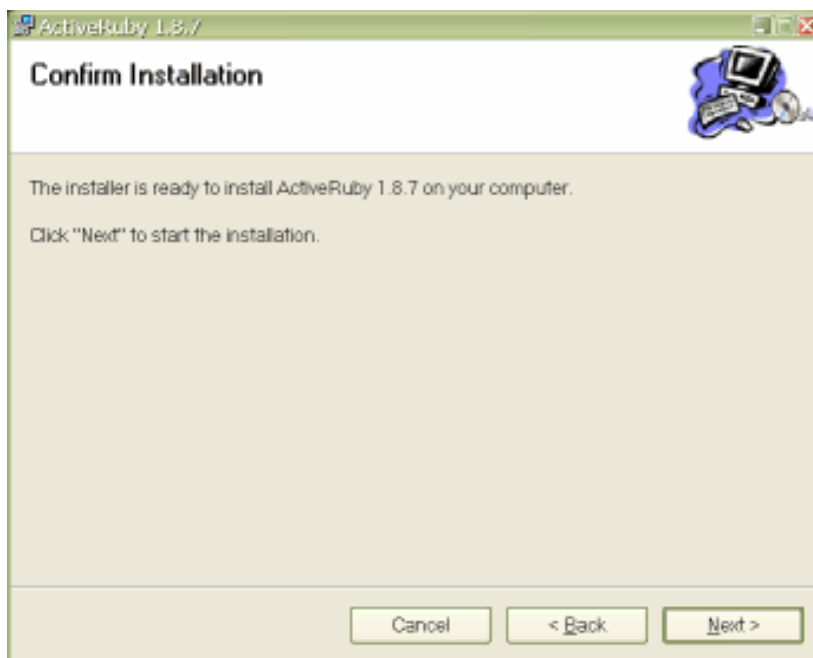
なぜ修正しなければならないかというと、Rubyをインストールするフォルダのパスに半角のスペースが含まれていると、Ruby-GNOME2(GTK+)を利用したRubyプログラムが正しく動作しないためです。具体的には、GUI部品上に表示される文字がすべて文字化けしてしまうなどの不具合が起きます。

パスに半角のスペースが含まれないフォルダであればいいので、「Browse」ボタンをクリックすると表示されるダイアログで別のフォルダを選択してもかまいません(念のために日本語が含まれていないパスを選択した方がいいでしょう)。ただし必ず中に何も入っていないフォルダを選択するようにして下さい。またパスは未作成のフォルダのものでかまいません。インストール実行時に自動的に作成されます。

次に、下の方にあるラジオボタンで、インストールした人だけがRubyを使えるようにするか、それともインストールしたパソコンのユーザーであれば全員Rubyを使えるようにするかを指定します。特に理由がなければ、「Everyone」(全員)のままでいいでしょう。

2つの項目の指定が終わったら、「Next」ボタンをクリックして続行します。

図4

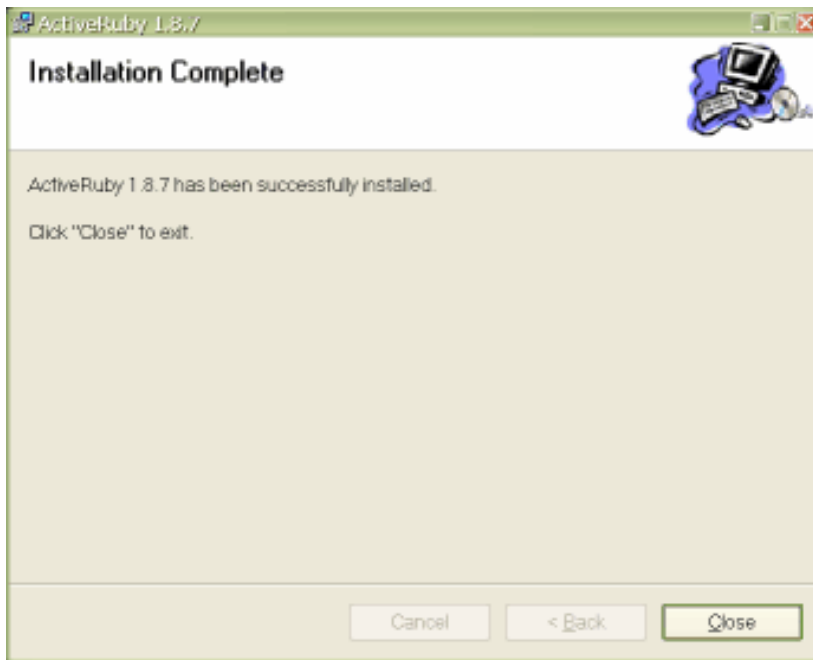


次に表示される「Confirm Installation」のページ(図4)は、インストールの意思確認のためだけのものなので、特に問題がなければ「Next」ボタンをクリックして続行してください。

ちなみに「Back」ボタンをクリックすると、インストールの手順を1つ前のページに戻すことができます。また「Cancel」ボタンをクリックすると、インストール自体を中止することができます。

「Next」ボタンをクリックした後は、インストールの進行状況を表すプログレスバーが表示されたページに切り替わり、ファイルコピーなどのインストール作業が自動的に進んでいきます。

図5



インストール作業が無事に終わると、画面が「Installation Complete」というタイトルのページ(図5)に切り替わりますので、「Close」ボタンをクリックしてインストーラを終了させて下さい。

環境変数PATHにbinフォルダを登録する

最後に、Rubyをインストールしたフォルダにある「bin」フォルダのパスを環境変数の「PATH」に登録します。これは、Ruby本体をコマンドライン(コマンドプロンプト)から起動する時の手間を減らす効果があるので、やっておくことをおすすめします。

手順は、まずスタートメニューなどからコントロールパネルの「システム」(「システムのプロパティ」ダイアログ)を開き、「詳細設定」タブをアクティブにして下さい。(図6)

次に、そのタブページの下の方にある「環境変数」ボタンをクリックすると、新しく「環境変数」ダイアログが開きます。(図7)

環境変数とは、独立した別のプログラム同士で情報を共有するための仕組みのひとつで、今回編集するPATH変数には、任意のフォルダのパスを登録することができます。ここに登録されたフォルダにあるプログラム(実行ファイル)は、ファイル名を入力するだけで(パスを入力しなくても)、コマンドライン(コマンドプロンプト)から起動することができます。

そして、図7を見るとわかりますが、この環境変数には「ユーザー環境変数」と「システム環境変数」があります。前者は現在ログオンしているユーザーごとに別の情報を保存することができますが、後者の場合すべてのユーザー間で同じ値が使われます。

図6

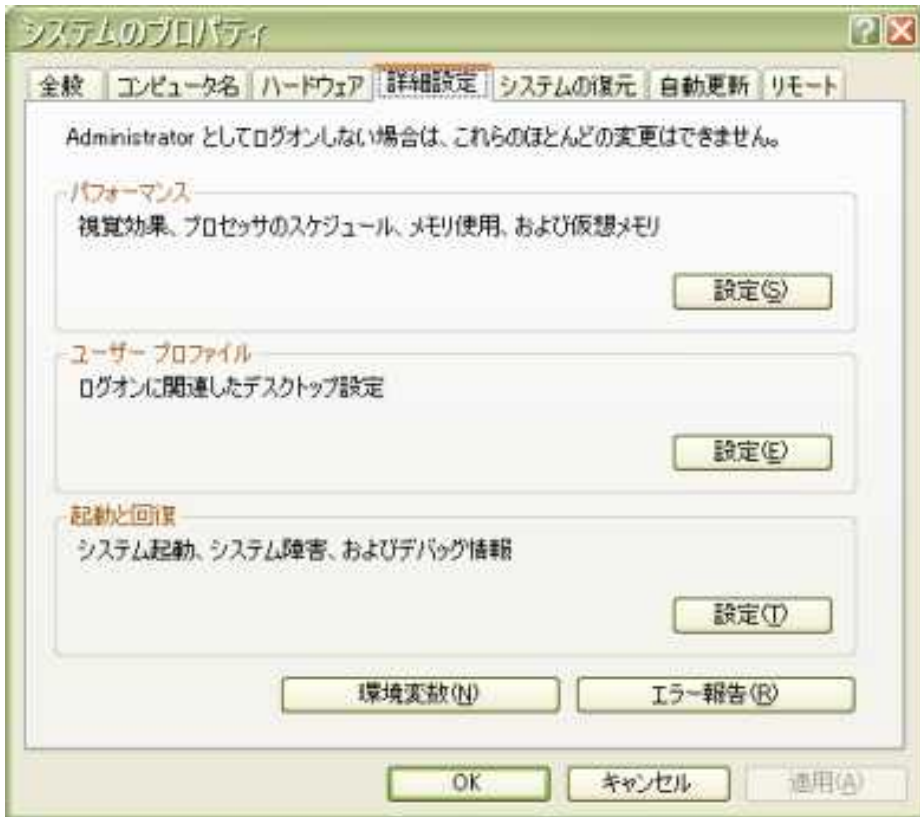


図7



先ほどActiveScriptRubyをインストールした時に、Everyone(だれでもRubyを使えるようにする)を選んだのであれば、システム環境変数のPATH変数にbinフォルダのパスを登録します。Just Me(自分だけが使えるようにする)を選んだのであれば、ユーザー環境変数のPATH変数に登録します。どちらに登録するにしても、やり方は同じです。

ただし、この環境変数は既に登録されている情報をむやみに削除したり書き換えたりすると、Windowsや他のプログラムの動作に支障が出るおそれがあるので、作業に慣れていないなどの理由で心配な方は、とりあえずユーザー環境変数の方に登録しておいて、後で必要になった場合にのみシステム環境変数に登録することをおすすめします。仮に変更が失敗しても、影響範囲を小さくできます。

つづいて以下のようにして環境変数を変更して下さい(ユーザー環境変数かシステム環境変数どちらか一方)。

まず「環境変数」ダイアログの変数リストの中から「PATH」(大文字小文字は区別しない)という名前のもを探し、見つかったら「編集」ボタンをクリックし、見つからなければ「新規」ボタンをクリックして下さい。「編集」ボタンをクリックした場合、図8のようなダイアログが表示され、「新規」ボタンをクリックした場合には、「新しい???変数」(???はユーザーまたはシステム)というタイトルですべて空欄の状態の同じようなダイアログが表示されます。

図8



次に、「変数名」の欄が空欄であれば、「PATH」と入力して下さい。大文字小文字どちらでもかまいません。

さらに、「変数値」の欄が空欄の場合、ActiveScriptRubyをインストールしたフォルダのパス(先ほどの例では「C:\Ruby-1.8\」)を入力し、続けて「bin;」と入力して下さい(この例ではすべて半角文字)。「変数値」全体としては「C:\Ruby-1.8\bin;」となるようにします。

「変数値」の欄に既にデータが入力済みの場合には、末尾に「;」(半角セミコロン)が付いているかどうかを確認し、付いていなければまず「;」を追加します。そのあとで続けて「C:\Ruby-1.8\bin;」と入力して下さい。(Rubyインストールフォルダのパス + 「bin;」)

最後に変数名と変数値を正しく入力したことを確認して、今までに開いた3つのダイアログを開いたのと逆の順番で、すべて「OK」ボタンをクリックして閉じて下さい。(決まった順番でしか閉じられません)

以上でActiveScriptRubyのインストールは完了です。

1.2 One-Click Ruby Installer for Windowsからインストールする

公開場所: http://rubyforge.org/frs/?group_id=167

One-Click Ruby Installer for Windowsは、書籍『Programming Ruby』(邦訳『プログラミングRuby』)の著者として有名なAndy Hunt氏が開発に関わっているインストーラーアークイブです。その関係で『Programming Ruby』(の初版?)がまるごと収録されたHTMLヘルプがおまけで付いています。

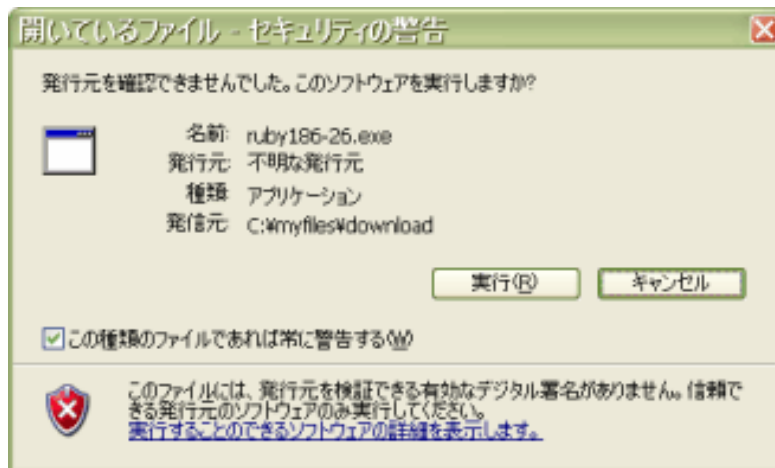
公開ページには過去のバージョンを含めたインストーラのダウンロードリンクのリストがありますので、最新の「Final Release」版のexeファイルをダウンロードして下さい。ここでは、「1.8.6-26 Final Release」(ファイル名: ruby186-26.exe)をダウンロードしたものと説明します。

インストーラを実行する

この項目の説明では、ActiveScriptRubyのインストールと同じ内容についてはいくらか省略して書きますので、分かりにくい部分があるようでしたら、ActiveScriptRubyの方の説明を読んでください。

まずダウンロードした「ruby186-26.exe」をダブルクリックします。すると図9のようなダイアログが表示される場合がありますが、気にせずに「実行」ボタンをクリックしてしまってもかまいません。どうしても心配な場合は、事前に「ruby186-26.exe」に対してウイルスチェックなどを行っておけばいいでしょう。

図9



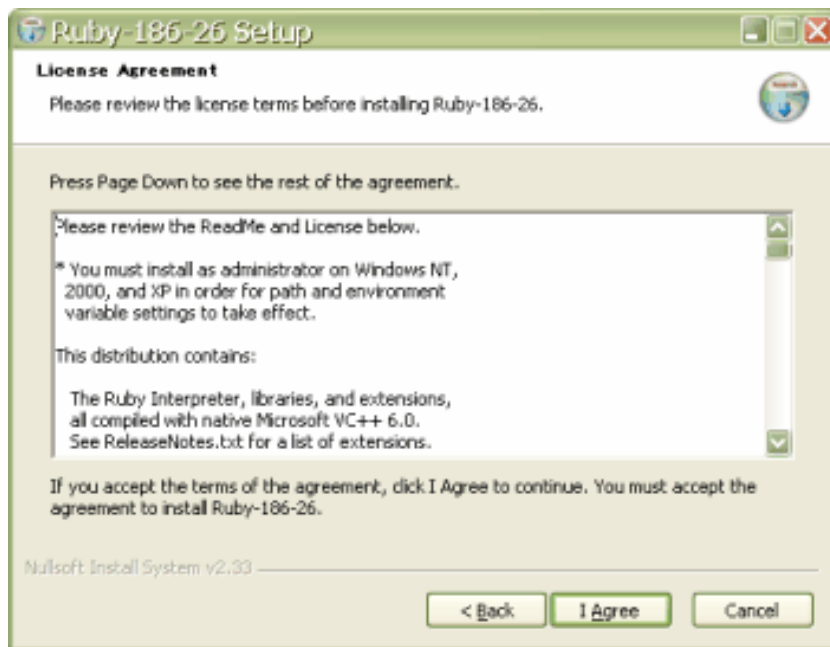
つづいて、インストーラが起動してスタート画面が表示されます(図10)。「Next」ボタンをクリックして続行して下さい。

図10



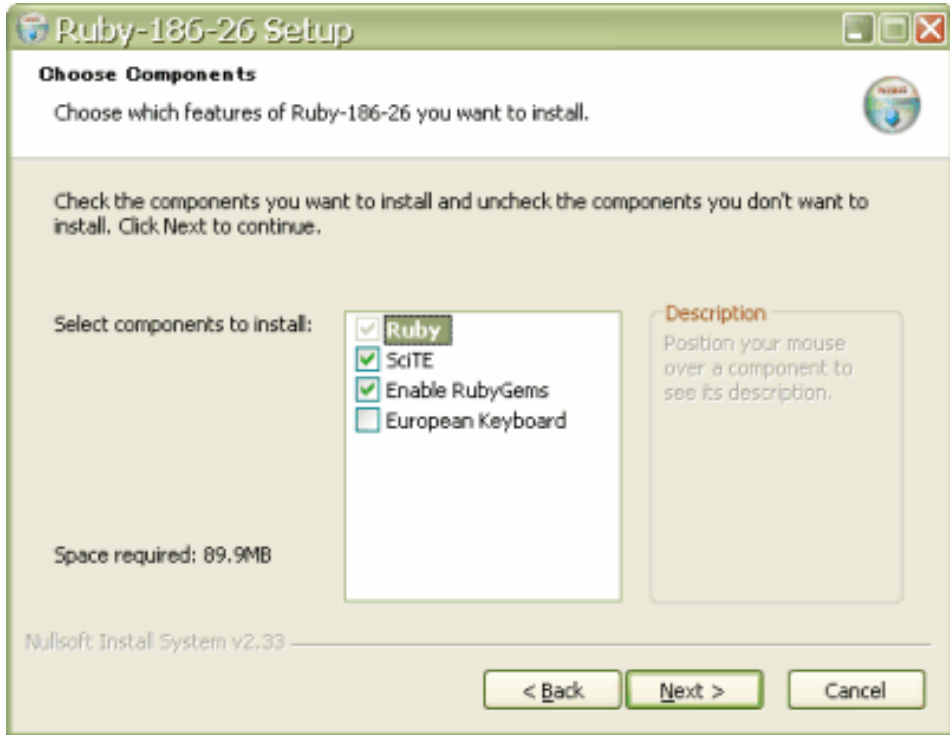
次に「License Agreement」というタイトルのページが表示されます(図11)。このページには、これからインストールされるものについての簡単な説明と設定されているライセンス(Rubyライセンス)が書かれていますので、念のために一通り目を通して下さい。読み終わったら、「I Agree」ボタンをクリックして続行して下さい。

図11



次に表示される「Choose Components」のページ(図12)では、インストール内容について細かい選択を行います。

図12



中央のエリアに表示されている項目について、インストールする場合にはチェックを付けます。「SciTE」はRubyスクリプトの色分け表示に対応したテキストエディタです。「Enable RubyGems」はRubyGemsをインストールするかどうかの項目ですが、Ruby-GNOME2アプリケーションを国際化するために必要な、Ruby-GetTextパッケージをインストールするのに便利なのでチェックしておくことをおすすめします。「European Keyboard」はチェックする必要はありません。選択が終わったら、「Next」ボタンをクリックして続行して下さい。

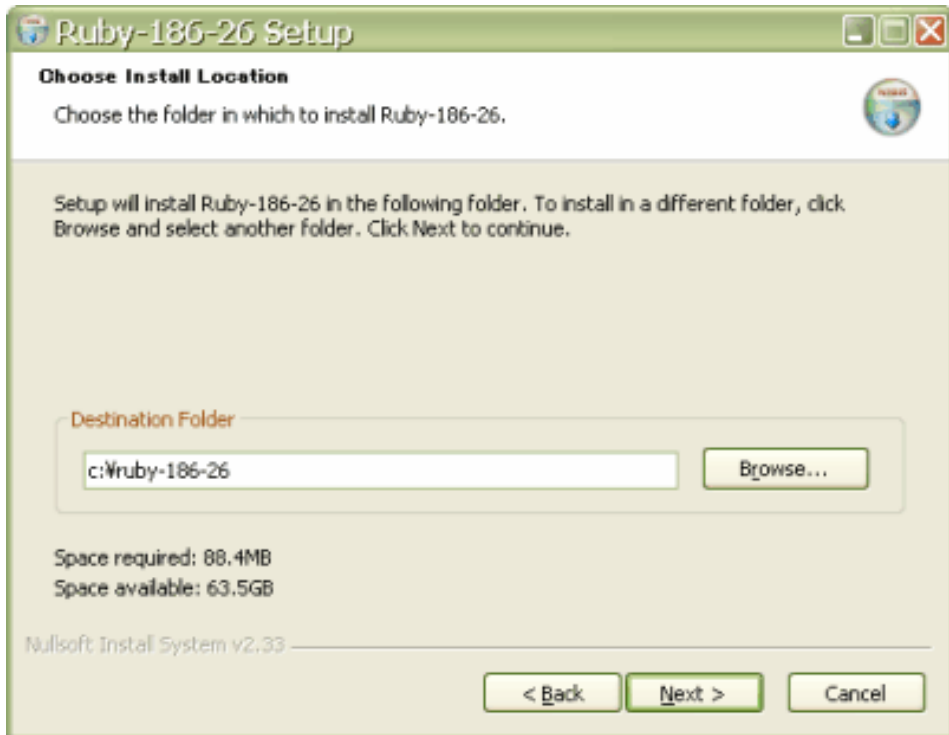
つづいて、Rubyのインストール場所を設定するための「Choose Install Location」のページが表示されます(図13)。

インストールしたい場所のパスを手作業で入力するか、「Browse」ボタンをクリックすると表示されるダイアログでフォルダを選択して入力します。ActiveScriptRubyのインストールのところで説明したように、半角スペースを含まないパスを入力して下さい。

パス入力欄の下に表示されている「Space required」と「Space available」は、それぞれ「インストールに必要なHDD容量」と「入力したパスが存在するHDDドライブの空き容量」です。

入力できたら、「Next」ボタンをクリックして続行して下さい。

図13



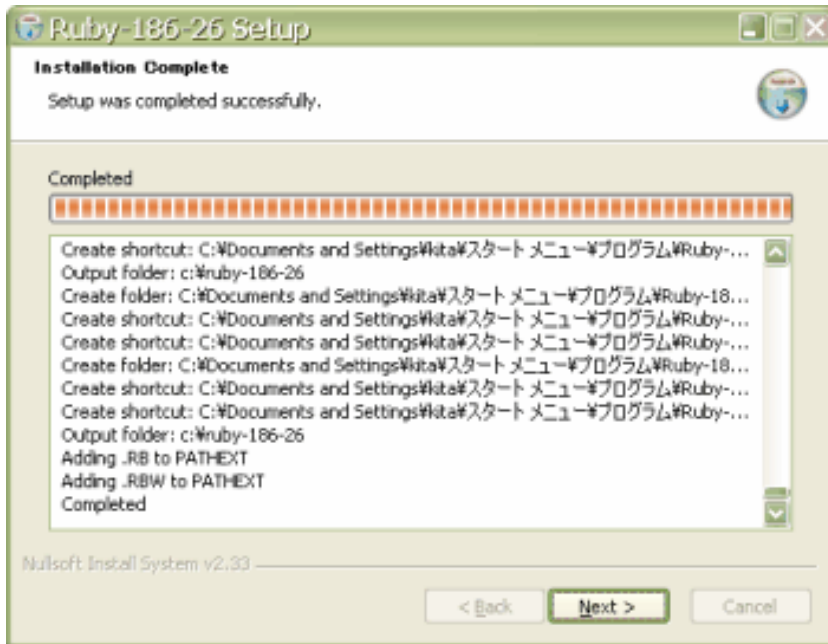
次の「Choose Start Menu Folder」のページでは、スタートメニューのショートカットなどが作成されるフォルダの名前を指定します(図14)。入力されている名前が、既にスタートメニューの「プログラム」フォルダにあるフォルダと重複していないか、一応下のリストで確認して、必要であれば作成するフォルダ名を適宜変更して下さい。

図14



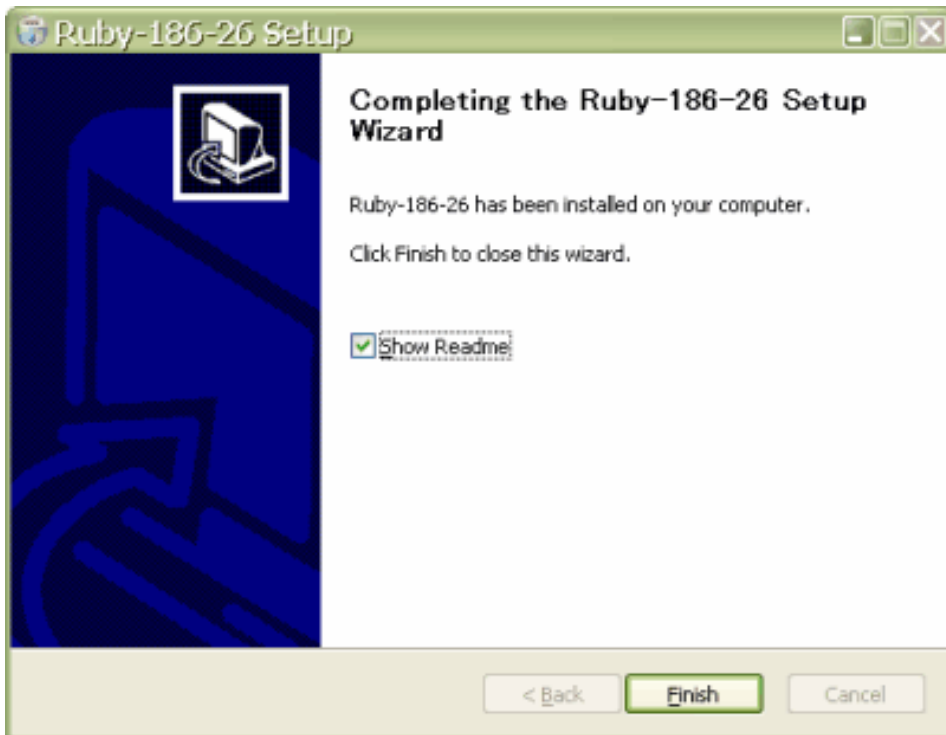
「Install」ボタンをクリックすると、プログレスバーが表示されたページに切り替わり(図15)、インストール作業が始まります。

図15



インストール作業が終了すると、状況表示欄の最後に「Completed」と表示されるので、「Next」ボタンをクリックして続行して下さい。

図16



最後に、インストーラを終了させるためのページが表示されます(図16)。終了した後に、インストール場所にコピーされたReadmeファイルを開きたい場合は、「Show Readme」をチェックして下さい。「Finish」ボタンをクリックすると、ダイアログが閉じてインストーラが終了します。

以上でOne Click Ruby Installer for Windowsからのインストールは完了です

インストーラによって設定される環境変数について

One Click Ruby Installer for Windowsは、実行時にいくつかのシステム環境変数を自動で設定します。それらについて説明します。

PATH : Rubyをインストールした場所にあるbinフォルダのパスが登録されます。詳しくは、p.4の「環境変数PATHにbinフォルダを登録する」を参照して下さい。

PATHEXT : 拡張子「.rb」および「.rbw」が登録されます。この変数に登録されている拡張子を持つファイルは実行ファイルとみなされ、PATHに登録されているフォルダにあるもののみですが、拡張子を省略したファイル名を入力するだけでコマンドライン(コマンドプロンプト)から実行することができます。

RUBYOPT : 「-rubygems」という内容が登録されます。この変数に登録されているオプションは、ruby.exeやrubyw.exeを実行する時に常に有効になります。

2. Ruby-GNOME2のインストール

公開場所: <http://prdownloads.sourceforge.net/ruby-gnome2/ruby-gnome2-0.16.0-1-i386-mswin32.exe?download>

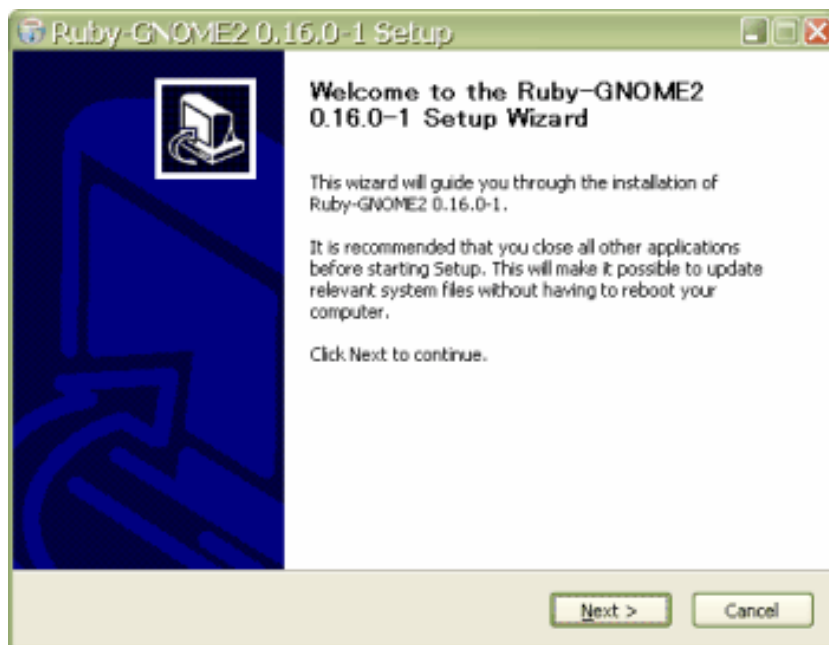
Windows版のRuby-GNOME2バイナリパッケージは、GTK+ランタイムライブラリ、GTK+をRubyから利用するためのライブラリ、およびRubyでGTK+を利用したプログラミングを行うのに便利なツール類をまとめてインストールできるインストーラです。ツール類には、GUIビルダのGlade2や、Glade2で保存したファイルを元にそれを利用するRubyスクリプトを生成するプログラムなどが含まれます。

上記の公開ページにある「Download Ruby-GNOME2」のリンクからダウンロードして下さい(ファイル名: ruby-gnome2-0.16.0-1-i386-mswin32.exe)。

インストーラを実行する

ダウンロードした「ruby-gnome2-0.16.0-1-i386-mswin32.exe」をダブルクリックすると、インストーラが起動して、図17のようなダイアログが表示されるので、「Next」ボタンをクリックして次に進みます。

図17



次の「License Agreement」のページ(図18)では、Ruby-GNOME2のライセンス(LGPL)が表示されます。一通り目を通したら、下のチェックボックスをチェックして「Next」ボタンをクリックして続行して下さい。

つづいて、オプションのインストール内容を設定するための「Choose Components」のページ(図19)が表示されます。

図18

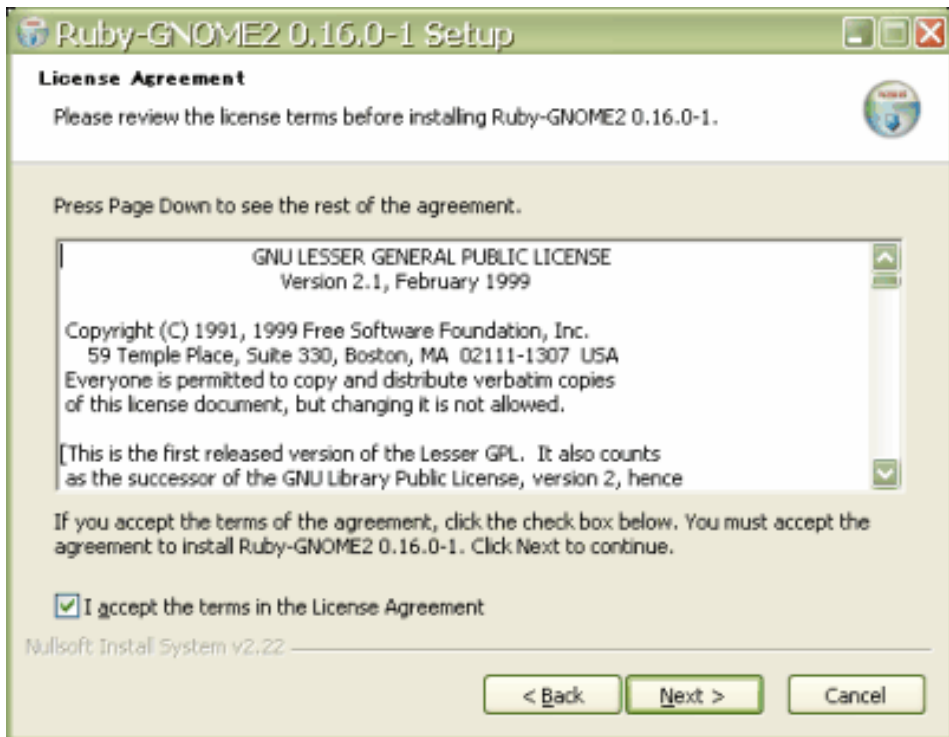
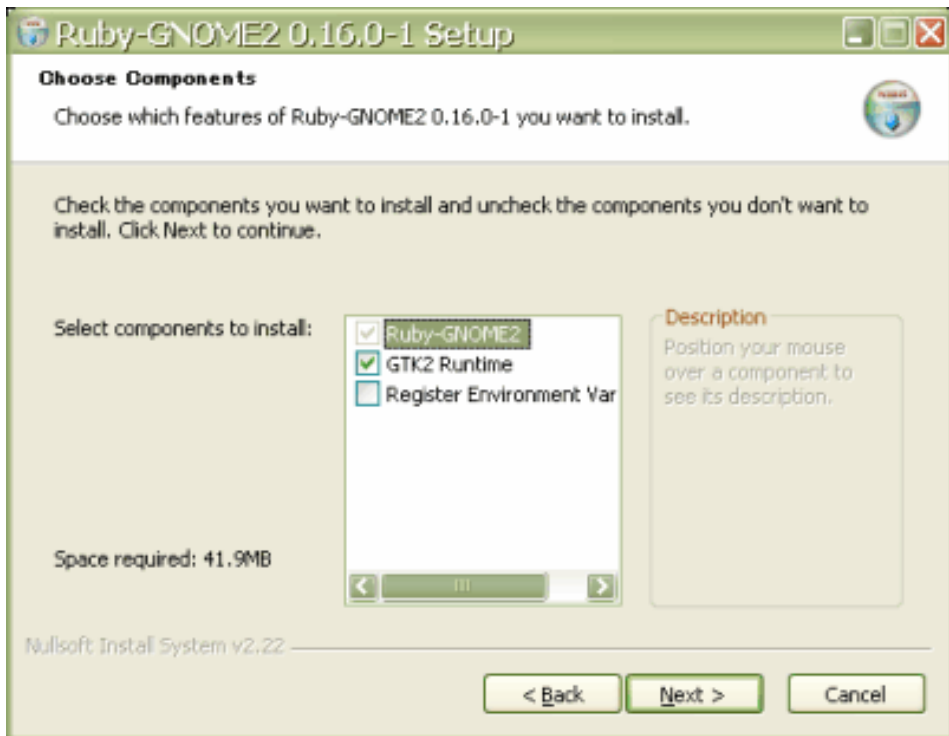


図19



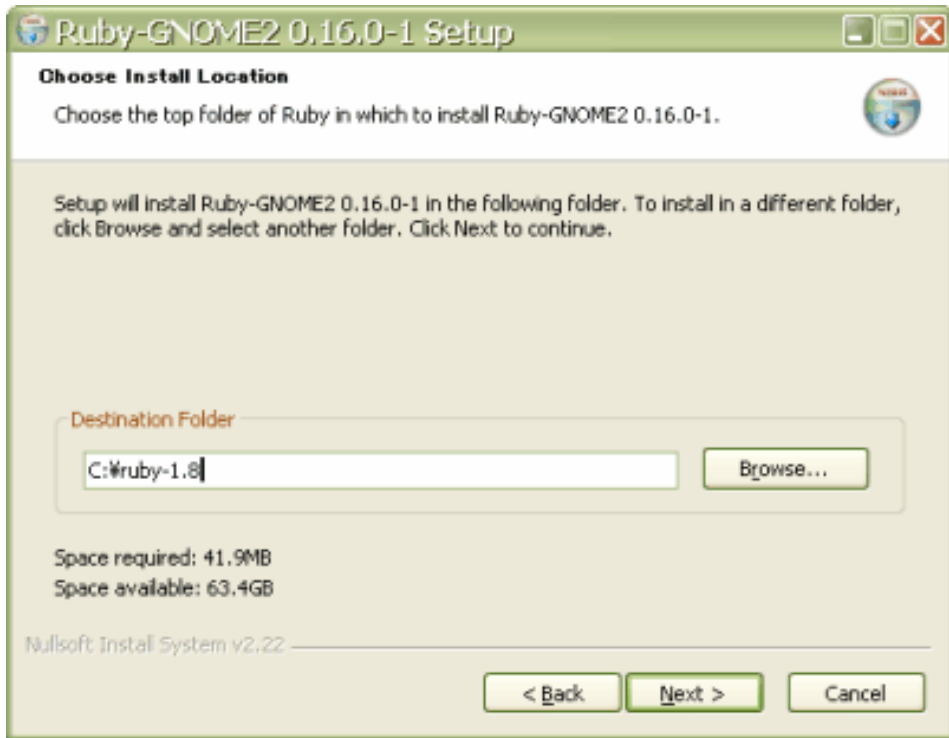
「Ruby-GNOME2」はGTK+をRubyから利用するためのライブラリで、必ずインストールされます。

「GTK2 Runtime」チェックボックスをチェックすると、インストーラ同梱のGTK+ランタイムライブラリがインストールされます。このPDFではこれを利用しない場合のインストール方法は説明しないので、チェックしておいて下さい。

「Register Environment Variables」は関連ツールがインストールされるフォルダのパスをPATH環境変数に登録するかどうかを指定するものです。ここで言う関連ツールとは、Glade2などRuby-GNOME2のプログラミングで頻繁に使われるものを除いた補助的なものを指しているのので、チェックしなくても特に支障はありません。

設定が終了したら、「Next」ボタンをクリックして続行して下さい。

図20



次に表示される「Choose Install Location」のページ(図20)では、インストール場所を指定します。ここでは、必ずRubyをインストールしたフォルダのパスを指定する必要があります。今までの説明の例で言えば、「C:\ruby-1.8」や「C:\ruby-186-26」です。

また「Browse」ボタンをクリックすると表示されるダイアログでフォルダを選択すると、パスの末尾に「¥Ruby-GNOME2」という名前が追加されることがありますが、その状態で続行するとインストールに失敗するので注意して下さい。

パスを正しく入力できたら、「Next」ボタンをクリックして続行して下さい。

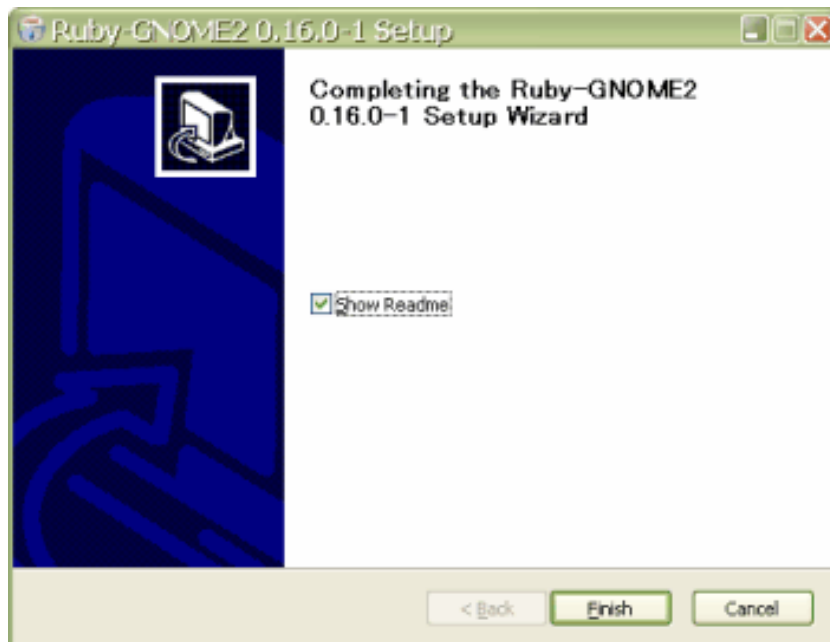
図21



つづいて表示される「Choose Start Menu Folder」のページ(図21)はOne-Click Ruby Installer for Windowsのインストールのところで説明したものと同じです。

「Install」ボタンを押すと、ファイルコピーなどのインストール作業が始まります。

図22



作業が終了すると、図22のページが表示されます。インストーラ終了後に、インストール場所にコピーされたReadmeファイルを開きたい場合は、「Show Readme」をチェックして下さい。「Finish」ボタンをクリックすると、ダイアログが閉じてインストーラが終了します。

以上でRuby-GNOME2のインストールは完了です。もしRuby本体のインストール後にPCを再起動していないようであれば、インストール中に行った設定を有効にするために、一度再起動して下さい。